

No	日付	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
1	7月24日	補足説明資料	25	補足説明資料添付-1)-1)においては、難燃PHケーブルの環境条件設定において、2018年～2019年に実施した調査結果を考慮したとされているが、設計基準事故環境下で機能が要求される電気・計装設備及び重大事故等環境下で機能が要求される電気・計装設備の環境条件(熱及び放射線)の調査の実施方針(どの範囲でいつ行うこととしているのかを含む。また、当該方針に基づき30年目以降に環境調査を行った理由を含む。)、方法、実績及び今後の計画について補足説明資料に記載すること。	「高浜3号炉_補足説明資料(絶縁低下)本文 P25」 「高浜4号炉_補足説明資料(絶縁低下)本文 P25」 へ記載する。		
2	7月24日	補足説明資料	7-2 1-1	ビッグテイル型電気ペネトレーションについては、補足説明資料p.7-2 別紙7. 添付-1)での2つの製造メーカーが示されており、他方、p.1-1別紙1)では、実機同等品の供試体により長期健全性試験を実施した旨記載されているが、以下について補足説明資料に追加すること。 ・2つの製造メーカーのペネトレーション本体の同等性の根拠(構造、材料) ・長期健全性試験ではどちらの製造メーカーの供試体を試験したか(外部リードの情報も含む) ・製造メーカー、外部リードの種類(シリコンゴム、EPゴム)の対応関係及び30年で評価対象となっていた難燃EPゴムが評価に含まれない理由。 ・評価書の「表1-1 電気ペネトレーションの主な仕様」における電気ペネトレーション名称と製造メーカーの対応関係			
3	7月24日	評価書 補足説明資料	19 1-4	ビッグテイル型電気ペネトレーションの外部リード(シリコンゴム)は、実機同等品による「原子力発電所のケーブル経年劣化評価ガイド(JNES-RE-2013-2049)」(ACAガイド)に準じて長期健全性を評価したとしているが、表2.3-3(外部リード(シリコンゴム)の長期健全性試験条件)で、設計基準事故時相当・重大事故等時相当として記載されている放射線(集積線量)の数値の注釈*2)において、60年間の平常時と事故時線量を包絡する旨記載されており、これにより、電気学会推奨案の通常運転時の劣化を模擬する熱加速劣化を行った後、放射線照射(通常運転時及び事故時の照射による劣化を模擬)を行う逐次劣化を適用したように理解され得る。ACAガイドに準拠していることを示す要素を評価書及び補足説明資料に記載すること。(「実機環境の線量率が低く、熱による劣化が支配的な領域」であること及びその根拠を説明すること。)	「高浜3号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙1 P1-4.1-7、1-16.1-17」 「高浜4号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙1 P1-4.1-7、1-16.1-17」 へ記載する。		
4	7月24日	補足説明資料	1-4	ビッグテイル型電気ペネトレーションの外部リード(シリコンゴム)のACAガイドに基づく評価において、 ①供試体とされた47.0℃布設環境で21.3年間使用したケーブルとビッグテイル型電気ペネトレーションの外部リード(シリコンゴム)の同等性について補足説明資料に記載すること。 ②47.0℃布設環境で21.3年間使用したとされるケーブルを評価に用いることについて、使用条件の観点から非保守的な評価とならないことの根拠(使用した実機ケーブルについて、適切に環境条件が把握されていること、評価における停止期間中の考慮の有無等)を整理して補足説明資料に追加すること。	「高浜3号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙1 P1-16」 「高浜4号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙1 P1-16」 へ記載する。		
5	7月24日	評価書 補足説明資料	7, 8 7-2	①補足説明資料別紙7. 添付-1)では高圧ケーブルの製造メーカーが示されているが、評価書においては、難燃高圧CSHVケーブルは、以下があることが述べられており、3つの製造メーカーがあるように見受けられる。これらのケーブルと製造メーカーの対応関係を説明し、必要に応じ、補足説明資料別紙7. 添付-1)に追記すること。 ・難燃高圧CSHVケーブル1 ・難燃高圧CSHVケーブル2(難燃高圧CSHVケーブル1と製造メーカーが異なる難燃高圧CSHVケーブル) ・難燃高圧CSHVケーブル3(難燃高圧CSHVケーブル1及び難燃高圧CSHVケーブル2と製造メーカーが異なる) ②屋外に布設しており水トリー劣化を評価で考慮している高圧ケーブルの製造メーカーを説明すること。			

高浜3, 4号炉 高経年化技術評価に係る審査コメント反映整理表(絶縁低下)

No	日付	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
6	7月24日	評価書	2, 4, 5, 21	<p>低圧ケーブルに関し、以下について説明すること。また、低圧ケーブル以外で同様の箇所があれば、併せて説明すること。</p> <p>①「表1-1 低圧ケーブルの主な仕様」において、使用開始時期の運転開始後の欄において、30年目の評価書と記載(○の有無)が異なる理由。</p> <p>②「表2.1-2 難燃KKケーブルの使用条件」、「表2.1-4 難燃PHケーブルの使用条件」において、設計基準事故時の周囲温度と圧力が30年目の評価から変更となっている理由。</p> <p>③ACAガイドに基づく評価の結果を示した「表2.3-9 実布設環境での長期健全性評価結果」のケーブルの項目数が30年目の評価書と異なる理由</p>			
7	7月24日	補足説明資料	-	<p>重大事故等対処設備に属し、重大事故時環境下で機能要求のあるケーブルの健全性評価において、NRA技術報告「重大事故環境下におけるケーブルの絶縁特性の分析」(NTEC-2019-1002)に示された知見を反映した評価を行い、補足説明資料に記載すること。(経年劣化管理に係るATENAとの実務レベルの技術的意見交換会資料において、PWRの電力共通の評価は行われているが、これを踏まえて、高浜3, 4号におけるケーブル長さ等の個別の状況を加味した評価を記載すること。)</p>	<p>「高浜3号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙7 P7-1,7-26」</p> <p>「高浜4号炉_補足説明資料(絶縁低下)別紙7 P7-1,7-26」</p> <p>へ記載する。</p>		
8	7月24日	評価書 補足説明資料	41 10	<p>(以下は高浜4の資料を参照して記載している)</p> <p>評価書の表2.3-9(実布設環境での長期健全性評価結果)及び補足説明資料表4.1-5(実布設環境での長期健全性評価結果)において、通路部の温度41℃、放射線線量率0.0005Gy/hにおける評価期間92年は、通路部の温度41℃に通電による温度上昇10℃を考慮して温度を51℃として評価していることを同表において記載すること。</p>	<p>「高浜3号炉_補足説明資料(絶縁低下)本文 P10.31」</p> <p>「高浜4号炉_補足説明資料(絶縁低下)本文 P10.31」</p> <p>へ記載する。</p>		
9	7月24日	補足説明資料	4-3	<p>使用済燃料ピット内の重大事故等時雰囲気内で機能要求がある難燃同軸ケーブルについては、絶縁体種類が同一で構造が異なる難燃性信号対ケーブルのACAガイドに基づく評価が行われているが、以下について補足説明資料に追加すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難燃同軸ケーブルと難燃性信号対ケーブルの同等性の根拠 ・難燃性信号対ケーブルに対する耐電圧試験結果を難燃同軸ケーブルの評価に適用できることの根拠 			
10	7月24日	評価書 補足説明資料	2 6	<p>(評価書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁電動装置は表1-1 高浜3号炉 伝動装置の主な仕様の※2において「重要度クラスとは別に重大事故等対処設備に属する機器および構造物」であることが示されており、重大事故等時の環境下において機能要求のある弁電動装置があるが、重大事故等時の環境条件を考慮した評価を行っていない理由を説明すること。 <p>(補足説明資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.6表.3.1において、弁電動装置の重大事故等時の列が“-”になっている理由がわかるように記載を追加すること。 ・別紙2添付-8)でCV内の弁電動装置のSA時の環境条件(138℃-4時間)は設計基準事故時の試験条件にて包絡されるとしていることについて、その根拠(プロフィール、事故時条件の比較による包絡性の説明等)を補足説明資料に追記すること。 			